

# 煌めく富山の女性 ロールモデル Vol.2

～ 農・林・漁業で活躍するトップレディー～



ロールモデルとは、『模範となる人』として将来こうありたいと目標にする存在であり、スキルや具体的な行動を学んだり模倣したりする対象となる人材を意味します。

## はじめに

富山県農山漁村女性活動推進会議は県内の農林漁業関係の6団体で構成され、農山漁村と農林漁業における女性の活躍と、男女共同参画を推進しています。県内には女性農林漁業者がいきいきと活躍されている優良事例が沢山あります。そこで、特に優れた事例を『見える化』し、ロールモデルとして紹介しようと、『煌めく富山の女性ロールモデル～農・林・漁業で活躍するトップレディー～』を作成することにいたしました。

今回、農業や林業に誇りをもって携わり、地域の方々からも厚い信頼と、大きな期待が寄せられている9名の女性にインタビューさせていただきました。そして、就業に至る経緯や、職業あるいは地域活動に取り組む上で、どのように考えて前に進んできたか、また、実際のライフスタイルなどをお聞きしました。

この冊子を読まれた方は、きっと共感や新たな気づきを持たれることと思います。そこから勇気づけられ、未来への一步を踏み出すきっかけになっていただければ幸いです。

そして、富山県の農林漁業や農山漁村地域の図り知れない魅力や、次世代に向けた夢と希望を感じていただけることを切に願うばかりです。

富山県農山漁村女性活動推進会議 会長 谷井 悦子

掲載にあたり:9名の方へのインタビューは2020年7～9月に行いました。

内容はその時点のものであることをご了承下さい。

# も く じ

## Interview

STYLE 1	<small>いまき</small> 今城	<small>あけみ</small> 朱美さん	高岡市	1
STYLE 2	<small>おがわ</small> 小川	<small>よしみ</small> 好美さん	朝日町	3
	<small>まえかわ</small> 前川	ひとみさん		
STYLE 3	<small>かわかみ</small> 河上	めぐみさん	富山市	5
STYLE 4	<small>こばやし</small> 小林	<small>ゆきこ</small> 由紀子さん	魚津市	7
STYLE 5	<small>さかい</small> 坂井	<small>さとこ</small> 智子さん	南砺市	9
STYLE 6	<small>せがわ</small> 瀬川	<small>るいこ</small> 瑠衣子さん	南砺市	11
STYLE 7	<small>たなか</small> 田中	みさとさん	小矢部市	13
STYLE 8	<small>はやし</small> 林	<small>きぬえ</small> 絹江さん	砺波市	15

## 各種窓口



今城 朱美さん  
Imaki Akemi

高岡市

農業

有限会社  
今城農園

[キーワード]

大規模農業法人  
ハーブ  
農産加工

### Profile

- 1977年 専業農家に嫁ぐ
- 1988年 ハーブ教室を開始、ハーブマドレーヌを商品化
- 2004年 (有)今城農園を設立し取締役販売部長となる
- 2014年 沖縄で「長命草」に出会い、栽培と普及活動始める

米、里芋、大豆、ニラ、ハーブを主に経営する(有)今城農園の取締役として野菜・ハーブの栽培と販売部門を担う。自身の感性を生かし、ハーブ部門を経営の柱として築き上げた。ハーブ教室は、おしゃべりと笑い声が絶えず、ハーブファンを増やしている。免疫力アップなどの効果がある「長命草」をより多くの人に作ってもらいたいと、苗の販売や栽培方法を伝授し、地域の活性化を目指す。

農業がすき。  
人がすき。

from imaki nouen

## —Interview—

### ■就業のきっかけ

実家は専業農家で、幼いころから農業をやってきました。農業をしないと反発していた時期もありましたが、青年団や4Hクラブで活動するうちに、やっぱり自分は農業に携わることでのびのびと生きることができると感じました。

結婚を考える年齢になると、一生農業を続ける覚悟のある人と結婚したいと考えるようになり、専業農家に嫁ぎました。

### ■仕事や地域活動のこと

野菜の選別・出荷のほか、ハーブ園の管理とハーブ雑貨作りを担当しています。ハーブ園では、約50種類のハーブを栽培し、栽培したハーブは、ドライフラワーやマドレーヌ、お茶、石鹸、ハーブソルトなどに加工して販売しています。

年間を通して開催しているハーブ教室では、

ドライフラワーのアレンジメントやポプリを使った小物作り、ハーブ料理を体験してもらっています。自社での開催を基本に、依頼があればどこへでも出張します。おかげさまで、教室を絶やした年はありません。

—仕事で大切にしていることを教えてください

社員の健康を守ることを大切にしています。社員が健康でないと信頼もなくなるので、8年前から、社員の健康管理のためにお昼ご飯を作るようになりました。

農産物や加工品の販売は、対面販売を基本にしています。農産物直売所に出店して、ハーブティーの試飲や、調理した里芋を試食してもらいながら販売しています。作り手の思いや苦勞、野菜の食べ方などは対面だと伝わりやすいと思います。



加工品の開発は、先入観をもたず、何でもトライしてみます。チューリップのドライフラワーは、前例が少ない中で3年かけて手法を確立しました。自分で手探りしながら手法を発見することは喜びです。

ーハーブを始めたきっかけを教えてください

姉が熊本県阿蘇市でハーブ園を運営していました。姉の所へ遊びに行き、ハーブ園を見た時、「私もこれをやりたい!」と思いました。元々、人に使われて仕事をするのではなく、自分の才能を活かした仕事がしたいとの思いがありました。最初は、畳1枚程度の広さから栽培を始めましたが、3、4年で気が付くと、田んぼ1枚ハーブを栽培していました。ハーブ栽培の先駆けだったこともあり、「栽培方法を教えて欲しい」という人が自然に集まり、教室の回数も増えていきました。大事な田んぼをハーブ栽培に使わせてもらえるのは夢のようで嬉しく、他の作業の合間にハーブの管理をする日々は充実しています。

ー地域活動について教えてください

40代では、高岡市の農業委員として県の役員も務め、女性農業士や中核農業士の交流会の企画等を経験させていただきました。50歳から、両親の世話などに専念するために、それらの役職は辞めることになりました。その時々で自分にとって大事なことが変化します。最優先すべきことに全力投球することになっています。

また、継続的に体を鍛えたい思いもあって、35歳から16年間、週に1回、地域の子供たちにビーチバレーボールを教えていました。子供は大好きです。

### ■モットーや座右の銘

「一生、チャレンジする。」チャレンジしたい気持ちがあるうちは、年寄りではなく青春時代だと思っています。

また、子供の頃、母が亡くなった時に、1日1日を充実させて生きることが大事と直感しました。それ以来、毎日を人生最後の日であるかのように大事に生きることになっています。

### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

夫と2人で沖縄旅行をします。行く度に新しい出会いがあり、エネルギーをもらえます。

### ■これからの夢

地域のお年寄りに元気に長生きしてもらうことが私の夢です。沖縄県の小浜島で出会った病気知らずのおばあちゃん達を見て、せめて私は、この村のおばあちゃん達を元気に長生きさせたいと思いました。3年前に「おとめの会」を立ち上げ、月1回、地域のおばあちゃんを集めて、フラワーアレンジメント教室の開催や女性の視点で地域の問題を解決するための話し合いを行っています。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

農業は、生涯続けることができる最高の仕事だと思います。若い方にも、ぜひ農業に取り組んでもらいたいです。常に、数年後の自分がどうなりたいかを考えながら緊張感をもって毎日を過ごしてください。夢は、夢と思わず、必ず実現すると思って努力してください。常に新しいことにチャレンジすることで毎日が楽しくなります。



前川 ひとみさん 小川 好美さん  
Maekawa Hitomi Ogawa Yoshimi



**Profile**

小川好美(姉)

- 1998年 看護師を辞め就農
- 2005年 夫の就農に伴い(有)アグリおがわ取締役に就任
- 2008年 プチヴェール栽培を広げるため『プチの会』を設立

前川ひとみ(妹)

- 1997年 父親からの依頼を受け就農
- 2020年 『真樹の会』会長

水稲・大豆を主に経営する(有)アグリおがわ(登録:入善町)のラズベリー等の園芸部門を姉妹で担う。『プチの会』、『真樹の会』などの活動に積極的に関わり、地域農業の活性化に貢献している。

朝日町

農業

有限会社

アグリおがわ

(登録:入善町)

[キーワード]

大規模農業法人

ラズベリー

真樹の会



—Interview—

■就業のきっかけ

小川 兼業農家で育ちました。長女でしたが、農業をするのは嫌だったので、准看護師の免許を取り病院で働いていました。

前川 姉が、農業はしたくないと頑なだったので、自分が生贄のように農業をすることになりました。

小川 そのうち、父・妹・主人の3人が田んぼの話で盛り上がっているのが楽しそうで、羨ましいとの気持ちが生まれ、自分も農業をやりたいと思うようになり就農しました。

■仕事や地域活動のこと

小川・前川 (有)アグリおがわでは、水稲を約80ha 栽培しています。その他に、ラズベリー、ハウスねぎ、プチヴェールなどの園芸作物を栽培しています。仕事は、園芸作物の栽培管理と経理

事務が中心ですが、水稲の水管理や田植え、稲刈りの手伝いもします。ラズベリーは平成22年に新川農林振興センターから勧められたのをきっかけに栽培を始め、今年で10年目になります。ハウス2棟で90ポットのラズベリーを栽培しています。ラズベリーは市場に出荷する他、ケーキ屋やお菓子屋に卸し、チーズケーキ、ゼリーなどに加工されています。

—地域の活動について

～プチの会～

冬に栄養豊富な野菜を作りたいとの思いからプチヴェールに着目し、農業仲間2人で『プチの会』を立ち上げ、栽培を始めました。プチヴェールの宣伝をしながら仲間づくりをし、現在は7名の会員で栽培しています。



### ～真樹の会・おいしいやさい部～

『真樹の会』は、JA みな穂(入善町・朝日町)管内の農業女性の集まりです。年に数回、集まって食事や旅行をして親睦を深めています。現在会員は21名で、年齢は、30代前半から60歳までです。JA みな穂の農業女性は『真樹の会』でつながっています。

『おいしいやさい部』は、『真樹の会』のメンバーの中で、野菜づくりをしたい人が集まり、活動しています。現在、JA みな穂の直売所『あいさい広場』に野菜を出荷しているのは、60から70歳が中心ですが、皆さんが元気なうちに、私たちが野菜作りを習って野菜を出荷できるようになりたいと思っています。毎年、会員で作る野菜を決めて、『あいさい広場』に出荷しています。これまで、『にんじん』、『落花生』、『カリフラワー』などに取組み、今年は『赤ジゾ』にチャレンジしました。

### ～柿の加工品『柿じまん』～

地元の『南保柿出荷組合』のB級品の柿で柿酢を作って商品化したものが『柿じまん』です。高齢化で、柿酢の作り手が減ってきていたので、柿酢の作り方を引き継ぐとともに、従来の販売規格を見直し、リニューアルして商品化しました。地元のスーパーや直売所で売られています。給食でも使われていて、小学校の給食メニューに『柿じまん』が載るのは嬉しいです。

### ■姉妹で農業をすることについて

前川 私はシビアで現実的、姉は夢見るタイプです。私は、無理なことはしないけど、姉は、できなくてもやろうとします。

小川 その典型が GAP 認証の取得です。言い出したのは自分だけど、妹が事務作業を引き受けてくれたから取得できました。「二人で一人」でやってきています。

### ■目標やモットーとしている事

小川 現在は、管理者側として従業員を育てる立場になりました。昔のやり方で人を動かすことはできないと感じていて、従業員の意見を聞きながら経営をしていきたいと思っています。妹から、従業員の思っていることを伝えてもらえて助かっています。

### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

小川 18歳からやり始めた茶道がリフレッシュになっています。抹茶を立てる作法が好きだったので続いています。週に1回教室に通い、毎年、入善町の『杉沢の沢スギ』で開かれるお茶会に参加しています。公民館で小学生に茶道を教えることもあります。

前川 今は、子供が小さくて自由な時間はとれていません。友達とランチに行く程度かな。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

小川 『気張らず、思いのままに。』農業のやり方はどんどん変わってきているので、若い人たちに昔のやり方を押し付ける必要はないと思っています。

前川 農家ごとにそれぞれ作業のやり方は異なっています。良いところだけ取り入れて、真似をしていけばいいのであって、他の人がやっているからという理由で全てをそのやり方に縛られる必要はないと思います。



河上 めぐみさん  
Kawakami Megumi



富山市

農業

有限会社  
土遊野

[キーワード]

循環型農業  
代表取締役  
農産加工

### Profile

2010年 大学卒業後、実家の（有）土遊野に就農  
2015年 代表取締役に就任  
2017年 新規部門として牛乳販売と乳加工を開始

日本の里山を守りたいとの思いから、東京の大学を卒業後、実家の（有）土遊野に就農し、現在は代表取締役。中山間地域で家畜（鶏・ヤギ）を育てながら循環型の農業を営んでいる。研ぎ澄まされたセンスと感性で独自の経営を展開している。



## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

両親は、「草刈り十字軍」運動をきっかけに東京からこの地に移住し農業を始めました。農業が身近にある環境で育ちましたが、自分には他に天職があるのではないかと思い、それを探しに大学は東京へ行きました。東京で農産物を扱うイベントで土遊野の卵を紹介したことをきっかけに、農業をつなぎ、伝える仕事をしたいと思うようになりました。

ところが、帰省した際、父から言われた「土遊野は、最後の砦。自分たちが辞めたら、山に戻ってしまう。」との言葉に、伝えたいと思っていた農業の現場が、高齢化が進み、なくなってしまう現状に危機感を覚えました。この言葉をきっかけに、自分が自ら、農業をやろうと決めました。その後の大学生活は、自分の目指す農業の方向性を模索しながら、農村や農家レストランを訪問するなど充実していました。東京と富山を行き来したおかげで、気づけたことが多かったと思います。

### ■ 仕事のこと

農業を始めて10年、社長になって5日目になります。農業を始めて最初の5年は栽培管理を中心に、次の5年は営業を中心に仕事をしてきました。次の5年は農業を伝えることを中心に取り組みたいと思っています。

現場のスタッフが育ってきたので、現場で仕事をする時間は減りました。水田で仕事をするのが好きなので寂しいですが、今の自分の役割は、皆が向かう方向を自信をもって決める舵取り役と割り切っています。方針の決定は、主に自分がしています。決定・決断の連続です。心配事も多いですが、楽しいです。一旦決断したら、試行錯誤しながら何とかなるように頑張ります。

生産されたものは全て土遊野で加工・販売しているので、何をどれくらい生産するかは、販売担当の意見を聞きながら決めています。労働力は



両親、私、夫、通年雇用6名、パート6名です。水田の半分は棚田で、枚数は110枚、鶏は約2,000羽飼っています。その他、パン、菓子、乳製品の加工も行い、農業体験も年間200~300人受け入れています。人がいないとできない規模です。水田の面積は、近隣農家の高齢化による離農に伴い、ここ3年で急激に増えました。人がいないとできない規模です。

人の雇用は、以前は採用条件を決めず雇用していたために、イメージとのギャップで辞める人もいました。現在は長期の計画を立て、必要な仕事を整理し、条件を決めてから採用するようになったので、辞める人がおらず、安定しています。

### ■育児と仕事のバランス

現在2歳の娘がいます。仕事中は、保育所に預けて、子供がいない時間に仕事をしています。子供との時間は、切り替えて仕事をしないようにしています。子供が生まれる前は、自分と会社、農業のことを常に考えていました。今は、働く時間は短くなりましたが、その分集中して仕事ができていると思います。子供が生まれたことで、人によってその時々で優先すべきものが違うことを理解できるようになり、育児などの事情を抱えるスタッフと同じ目線で物事を考えられるようになりました。

### ■目標やモットーとしている事

自分にとって豊かさとは、感性と想像力が豊かなことです。感性を豊かにするために五感を研ぎ澄ますことを意識し、想像力を豊かにするために世界の裏側で起こっていることを勉強します。

この時代に、この場所で生きている間は、自分が、人のためにできること、やりたいこと、やってみたいことを精いっぱいやるべきだと思っています。

### ■これからの夢

日本の里山の素晴らしさや農業の必要性を多くの人に知ってもらい、後世に残していくことが夢です。そのために、土遊野を里山や農業を体感・体験できる場所、人と大地をつなぐ場所にしたいと考えています。共感だけではない農業との真剣に向き合いについて、自分のできるところまで伝えたいと考えています。

### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

1日24時間、全て自分でカスタマイズできる時間なので、全て自由時間ではありますが・・・

空いた時間は、映画を観たり、漫画を読みます。特に「風の谷のナウシカ」が好きで、テンションが下がった時に観ると元気になります。人と大地との絆を結ぶナウシカの姿に勇気づけられます。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

農業の面白いところは、目の前の大地に自分で自由に思い描いた設計図により、食べ物を作り、それが仕事になることです。全て自己責任ですが、それがやり甲斐にもつながります。農業は可能性に満ちているので、その人なりのやりたい農業をやるのが、楽しく農業をやる秘訣だと思います。



小林 由紀子さん  
Kobayashi Yukiko



魚津市

農業

米工房  
Jasmine

[キーワード]

米粉  
農産加工  
地産地消

### Profile

- 2008年 実家(魚津市)のMK農産の米粉でパン作りを開始
- 2009年 自宅近くに加工直売所をオープンし、本格的に営業開始
- 2011年 市内中心部に新たな加工・直売所をオープン

実家のMK農産の米粉を原料にパンを加工・販売する。東京での講習会等に積極的に参加し、米粉を使ったパンづくりのスキルを磨き、消費者ニーズに合わせたパンを作ることで着実に事業規模を拡大。県内外での講習会の講師を引き受け、米粉の加工法について伝えることで地産地消に貢献。



## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

魚津の中山間地で、家族で水稻を栽培しており、小さい時から田んぼを手伝い、こんな田舎は嫌だと富山を飛び出し東京で生活をしていました。それでも、出産を機に自分が育った環境で子育てがしたいと帰郷、家の手伝いをするに。米の乾燥・調製作業を手伝っている時、節下の販売できない米の多さに驚きました。この米を何かに活用できないかと思ったことが米粉との出会いでした。25歳の秋のことです。

### ■ 仕事や地域活動のこと

当時、まだ米粉パンのノウハウはなく、ホームメイド協会の製パン師範免許を取得しましたが、小麦粉を100%米粉に変えるレシピは自分で編み出すしかありません。家の空き部屋を加工室に改装し、米粉専門のパン屋を開業、移動販売から始めた半年後に

は自宅近くに店を構え、営業しながら東京に開設された米粉パン専門コースの受講で技術を磨きました。中山間の不便なお店にもお客様が通ってくださるようになった27歳の時、思いがけず市街地への出店のお誘いがあり、1年後、今のお店を開店しました。

短期間でこんなに投資してよいのかと迷った時もありましたが、行動を起こすことが人生を変えるきっかけになるし、毎日の小さな努力の積み重ねが自分の自信となり、成長させてくれていると思います。

パンを作っているのは自分ですが、応援してくれる方々の思いがあって、パン作りができていますと感謝しています。映画“魚津のパン屋さん”で、自身やお店のパンも使っていただき、自分の人生と重ね合わせるような気持ちで協力しました。また、これまでの農業や食を通しての想いを綴った作文が評価され、毎日農業記録賞で最優秀賞をいただいたときは、これまでの自分を省み、感謝と地域の絆を思いました。



現在、パンの種類は300種類以上です。MK農産の米を米粉に加工し、米粉100%の商品作り、今では、自店舗だけではなく、市内外の9か所の売店やスーパーに卸しています。お店によって売れ筋商品が違うので、卸先に合わせて作るパンの種類を変えています。

県内外のパンフェスや地域で開催されるイベントにも積極的に出店しています。一度にたくさんパンを作るので、子供たちにも手伝ってもらっています。

#### 一地域の活動等について

小学校、児童館、公民館などで米粉を使ったパンやお菓子づくりを教えています。14歳の挑戦や高校生の職業体験、県外やJICAからの視察も受け入れてきました。東京や九州で講演したこともあります。「頼まれごととは試されごと」、期待に応えられているかはわかりませんが、一人でここまで来た訳じゃない。自分が受けた恩を「おかげさま」の心を忘れず、少しずつでも恩返しできる人生でありたい。「アレルギーだけど、このパンなら食べられるの」と通ってくださるお客様もいます。人とのつながりができるのは嬉しいことです。

#### ■介護・育児について

自分の人生に妥協したくない。それは、仕事も子育ても、そして3年前に病気で障がい者になった父の介護に対してもです。今まで、親や子供たちは自分に合わせてくれました。

これからは自分が土台となり家族を支えていかなければいけない。今度は、自分が家族に合わせて行く番だと思っています。

父のデイサービスへの送迎、遠方の学校に通う子供たちの送迎は、家族と協力し合っています。送迎時間は、父や子供たちと会話しながらお互いに向き合う時間になっています。このような時間の使い方は、今の仕事をしているからできることかと思っています。

#### ■モットーや座右の銘

「人間万事、塞翁が馬」世の中に起きる良いことも悪いことも予期できず、それに振り回されてはいけない、ということです。また、「努力は決して裏切らない」という言葉を子供たちと自分にいつも言い聞かせています。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

本を読むのが好きです。ジャンルを問わず何でも読みます。実業家の斎藤一人さんなど…また、本を紹介されるのも好きです。その人を知ることにも繋がります。本を読んでいると、いつの間にか元気を取り戻すことができます。

#### ■これからの夢

親の介護、子供の受験等で、今は自分の事だけに時間が取れる状態ではありませんが、落ち着いたら新たな挑戦をしたいと視察や情報収集等、限られた時間でできる準備を進めています。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

人の意見は人の意見として、自分の心はまっすぐであったほうがいいです。自分の信念をもつことが、自分を強く保てるコツだと思います。いろんな意見に振り回されず、負けない心でがんばってください。好奇心と向上心があれば、人間、何歳になっても魅力的でいられるはずですから。笑



坂井 智子さん  
Sakai Satoko

南砺市

農業

ログログファーム

[キーワード]

少量多品目

有機農業

消費者 交流

### Profile

2000年 小矢部市の野菜苗農家で研修  
2002年 夫とともに就農し、翌年、家族経営協定締結  
2008年 南砺市内の農業者と『こだわり倶楽部みのりっこ』を設立

非農家からの独立・自営就農。少量多品目の野菜と野菜苗を経営の柱にし、有機農業を取り入れながらも柔軟でバランスのとれた経営を実践している。農業体験の受入れや『こだわり倶楽部みのりっこ』での活動を通し、生産者と消費者との交流の場を提供している。



ログログファーム  
LOGLOGFARM

## —Interview—

### ■就業のきっかけ

実家は両親ともに公務員で、水田も畑もありませんでした。農業に興味をもったのは大学生の時です。教育学部でしたが、農学博士の先生のゼミに入り、土に触れ農業に興味を持ちました。その後、農学部の大学院へ進学し、稲に関する研究をしました。公務員になり、お金を貯めてから農業をしようと思っていましたが、試験に落ちたので、前倒して農業をする必要がでてきました。当時、付き合っていた人(現在のご主人)が農家だと聞いていたので、「一緒に農業をやりませんか?」と私から声をかけました。

主人は富山市のハウレンソウ農家で、私は野菜苗農家で2年間研修を受けた後、ハウスを10棟建て、ハウレンソウ農家としてスタートしました。

### ■仕事や地域活動のこと

経営内容は、野菜と野菜苗の生産です。野菜は60品目、150品種、野菜苗は30~40品目を作っています。その他、農場でとれたショウガを使ったジンジャーシロップなどの加工品製造や農業体験の受入れを行っています。

野菜は、ハウスと露地で1年を通して栽培しています。野菜苗は、1~5月、7~9月にハウスで作っています。野菜苗の時期は、水管理・温度管理に気が抜けないので、精神的にも体力的にも疲れますがやりがいのある仕事です。

野菜は、飲食店を中心に、一般家庭へも販売しています。一般家庭へは、旬の野菜と果物、加工品などを詰め合わせたセットをログログファームのHPを通じて販売しています。

農業体験は、年間100~150人受け入れています。薪ストーブのオープンを導入したので、『トマトの収穫+ピザづくり』など、収穫と調理を組み合わせた体験会をしています。



### 一有機農業について

もともと、ハウレンソウは、農薬を使用した一般的な栽培方法で市場へ出荷していました。市内で有機米を作っている方と、無農薬野菜を探していた飲食店の方との出会いが有機農業に取り組むきっかけとなりました。

また、その頃、自分達が納得して農業をするために農薬散布を減らしたい思いもあったので、有機農業を始めました。2007年にはハウレンソウで有機JAS認定も受けました

### 一地域活動について

2008年に「こだわり倶楽部みのりっこ」を立ち上げました。南砺市で農業をしている7、8人のメンバーが集まった有機農業愛好グループです。サツマイモを植えて、お客さんをお呼びして掘ってもらうなどの収穫体験会を開いて、生産者と消費者をつなぐ場を提供しています。

### ■目標やモットーとしている事

「継続は力なり」。継続していくうちに分かっていくことがあります。

### ■これからの夢

農業を体験できる機会を増やして、農業を職業の選択肢の1つに考えるきっかけを作りたいと思っています。近年、農業者は減っていく一方なので、心配しています。

### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

自由時間は、栽培管理をしながらの自由時間と、家から離れられる自由時間の2通りあります。家にいる自由時間は、家で楽しめることをしています。今は、燻製づくりにはまっています、ドラム缶を半分に切ってナッツ、チーズ、鶏肉などの燻製をつくっています。

家から離れられる自由時間には旅行に行きます。また、30代で何か新しいことに挑戦したいと思い、バイクの免許を取得しました。バイクで近隣の閑乗寺公園や原山牧場など少し標高の高いところへ行って涼んで帰ってくるとリフレッシュになります。これからは、バイクで県外旅行にも行きたいです。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

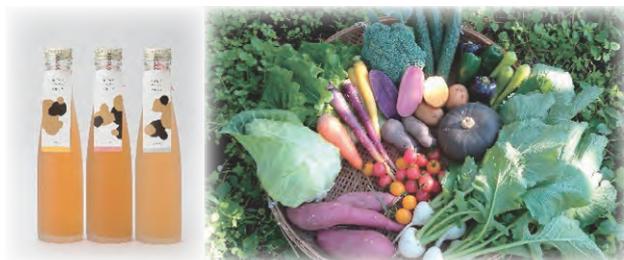
農業を始める前に、自分がやりたいと思っていることが、仕事として本当に成り立つかを、綿密に繰り返し考えることが大事です。自分がやりたいことと、世の中が求めていることが、一致しない場合があります。

有機農業を希望している方は、全てを有機野菜にこだわるのではなく、もっと柔軟に考えていいのではないかと思います。有機農業で販売金額を上げる場合は、面積が必要です。広い面積を管理する場合は人の雇用も必要になります。

ログログファームでは、有機野菜も栽培していますが、小面積で安定して収益を確保できる野菜苗を組み合わせるなど、面積と労働力に見合った経営となるよう工夫しています。

まだ、道半ばですが、アルバイトをしなくてよくなったので、農業が仕事としてある程度のところまできた手ごたえはあります。

独立・自営就農は軌道に乗るまでに時間がかかるし、リスクもあります。新たに農業を始める方には、1つの考えに固執するのではなく、法人に『勤める』農業も視野に入れつつ、バランスのとれた農業をして欲しいと思います。



瀬川 瑠衣子さん  
Segawa Ruiko



南砺市

林業

富山県西部  
森林組合

[キーワード]

森林整備  
森林施業プランナー  
森林組合職員

### Profile

2014年 県の就業支援フェアに参加し、林業に出会う  
2015年 富山県西部森林組合に就職  
2016年 森林施業プランナー認定試験に合格

富山県西部森林組合の技師として、森林整備の現場監督や森林団地集約のための計画作成に携わる。森林整備の説明会では相手のことを考えた真摯な対応により、多くの森林所有者から信頼を得ている。仕事の幅を広げるため林業に関するさまざまな資格を取得し、自己研鑽に励む。

 Jforest 富山県西部森林組合

## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

もともとは民間企業の事務職をしていましたが、社会人になってから登山を趣味にするようになり、徐々に自然に関わる仕事に転職したいと思うようになりました。

家が農家だったので、農業関係で働きたいと思い、「とやま農林漁業就業支援フェア」に参加しました。農業の話聞いた後、たまたま林業ブースに立ち寄ったことが、今の仕事につくきっかけとなりました。

林業ブースの担当者から「林業の現場を直接見てみないか」と提案され、南砺市で林業をされている江尻美佐子さんや立山山麓森林組合の仕事を見学に行きました。その後、体験林業を3日間やらせてもらいました。森林の調査や測量の手伝いをする中で、少しずつ林業に興味が出て、やってみたい気持ちになり始めた時にタイミング良く、富山

県西部森林組合で職員（技師）を募集していたので、面接を受けました。女性は落ちるだろうと思い、受験しましたが採用され、今に至っています。

### ■ 仕事のこと

3月までは、高岡支所に勤務をしており、山林の所有者の方と話をしながら森林の整備を進める仕事をしていました。現在の砺波支所に異動してからは、森林や屋敷林の伐採の現場監督をしています。具体的には現場作業の段取りや、安全面を管理するのが仕事です。チェーンソーを扱う資格は持っていますが、今は、実際に木伐る作業をすることはありません。

仕事中は、外にいる時間と事務所にいる時間が半々です。ずっと屋内でも野外でもないのが自分にとってはバランスが良く気分を切り替えながら仕事ができます。



林業は、危険な仕事だと覚悟はしていましたが、実際に働いてみると、ちょっとしたことがケガや事故につながることを一層実感しました。安全に仕事をするためには、熱中症や蜂への備えなどの安全対策に加え、普段の体調管理が最も大切です。また、森林の調査や測量は、雨でも雪でも、天候に関わらず実施しなければいけません。

同じ職種の女性は県内で自分を含め2人だけですが、女性だからといって現場でも事務所で差別的なことはなく働きやすいと環境だと思います。林業をやっている方は、口数が少なく職人気質の方が多いため、自分から遠慮せずに、いろいろ質問することが大切です。

#### ー森林施業プランナーについて

森林施業プランナーは、森林所有者に代わって森林機能をより良くするための計画を立て、森林所有者への説明、間伐などの森林整備をする仕事です。森林の団地には多くの所有者がおられるので、合意形成のための説明会や整備後の報告会等があります。私は、森林の団地を任されてから、森林施業プランナー認定試験の勉強を始めました。それまで、どのような提案をすべきか曖昧な状態で団地の担当をしていましたが、試験勉強をすることで森林所有者に提案すべきことが整理でき、明確になりました。資格取得はよかったと思っています。

#### ーやりがいを感じる時

森林整備を行う場合は、森林所有者の要望を聞きながら計画を進めていきます。整備後の報告

会で、「山がきれいになってよかった。」と直接感謝の言葉を聞けるのはとても嬉しく、またがんばろうという気持ちになります。

#### ■目標やモットーとしている事

私は、マイペースなタイプなので、仕事は無理せず、自分らしくやっていきたいと思っています。色々な人と接する機会が多い仕事なので、人と接するときは明るく・笑顔で寄り添うような形で話を聞くことを心がけています。

#### ■これからの目標

今年、2級土木施工管理技士の資格を取得予定です。その他にも林業には、多くの資格があるので、どのような資格があるかを勉強しながら、現場管理につながる資格を取得したいと考えています。

林業では、資格がないとできない仕事がたくさんあります。また、資格取得により、公共工事の現場施工監督ができるようになるなど仕事の幅を広げることができます。林業の知識を深め、現場でよりよい提案ができるようになりたいです。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

仕事以外で、体を動かすことがリフレッシュになっています。趣味は登山ですが、去年は、初めて富山マラソンに出場しました。それ以来、走ることも健康的でいいなと思い、晴れた日の夕方走っています。また、ビーチバレーのクラブに所属し、定期的な練習に参加しています。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

私は、林業の知識が全くない状態でこの世界に入りました。それでも、やりがいをもって仕事ができます。自然の中で仕事をしたい人や、特殊な仕事がやってみたい人にお勧めです。「林業って何?」と知っている方もまずは、話を聞きにきてくださいね。



田中 みさとさん  
Tanaka Misato



小矢部市

農業

田中園芸  
メルヘン工房

【キーワード】

バラ

家族経営

生花加工

### Profile

1999年 石川県から帰郷し、実家の田中園芸に就農、2002年に両親と夫との間で家族経営協定締結

2005年 日本フラワーデザイナー協会認定2級資格を取得

2007年 フラワーアレンジメント教室を開始

バラを中心に経営を行う田中園芸で、切花の栽培管理・出荷、生花加工・フラワーアレンジメント教室に携わる。独自のアイデアで、生花を加工した商品を開発し、販路を拡大している。フラワーアレンジメント教室は受講者のニーズに合わせた内容が好評でリピーターが多い。



## —Interview—

### ■就業のきっかけ

実家の田中園芸は、バラを中心とした切花と水稲の経営をしていました。実家を継ぐつもりはなく、高校卒業後すぐに石川県金沢市の花屋へ就職しました。細かいことをするのが好きだったので、フラワーデザイナーをやりたいと思っていました。

ところが、当時お付き合いをしていた人(現在の夫)が、製造業から農業への転職を希望し、田中園芸で研修を受け、そのまま就農しました。そして、父からは、ガラス温室を増設して、バラの栽培を増やすから、手伝ってほしいと頼まれました。そのような理由で、実家に戻り切花栽培を手伝うことになりました。せっかく実家を離れたのに…。実家に帰ることに始めは乗り気ではありませんでした。

### ■仕事や地域活動のこと

田中園芸では、バラ、ユリ、アスターなどの切花の他に、水稲・大豆等も作っています。水稲は父と夫が携わり、切花は私と夫、母が中心に携わっています。田中園芸に就職してから数年は、パートさんと一緒に切花の栽培管理作業するのが自分の仕事でした。今は、花の栽培管理と出荷作業の責任者としてやっています。それに加え、生花の加工やフラワーアレンジメント教室をしています。

生花の加工では、お風呂用のバラの花を販売しています。これは、バラの花首だけを、卵のパックに入れた商品です。茎が曲がっているなどの理由で、市場に出荷できないバラを活用したくて思いつきました。10年前頃から始めましたが、今は売れ筋商品の1つとなり、毎日注文があります。「道の駅メルヘンおやべ」の足湯にもこのバラを浮かべてもらっています。



15年前にフラワーデザイナーの資格を取得し、13年前からフラワーアレンジメント教室を始めました。

教室を始めたきっかけも、市場に出荷できない切花を、効率よく活用したいと思ったからです。市場に出荷できないものは、もともと、母がドライフラワーや草木染めの材料として活用していましたが、十分な需要がないことや、手間がかかるなどの課題がありました。

月1回の教室に加え、依頼があれば、出張して教室を開いています。仕事帰りに何も持たずに立ち寄れる教室にしたいと思い、教室で使うハサミやワイヤーなどは全て準備しています。教室のテーマは、リース、お正月飾り、プリザーブドフラワー、ハーバリウムなどさまざまです。教室では、受講者が日常生活で求めているものを直接聞くことができるので、その意見を取り入れながら教室のテーマを考えています。キッチン用具やマグカップに花を生けるなど、楽しく、ワクワクする教室になるよう工夫しています。

フラワーアレンジメント教室が、花と消費者をつなぐきっかけになればいいと思っています。需要があつてこそ、自分たちが市場に出している花が評価されます。花の需要を高めるためにも、フラワーアレンジメント教室はこれからも続けていきたいです。

#### 一地域活動について

「れんげの会」に加入しています。この会は、高岡農林振興センター管内の4市（小矢部・高岡・

射水・氷見）の若い女性農業者が加入しているグループです。小矢部市からは4人加入しています。年に2回研修会があり、うち1回は、会員の方や先輩女性農業者の仕事場に見学に行きます。自分の作業場を持っている方が多くて、自分もそのようになりたいと良い刺激になります。

#### ■目標やモットーとしている事

「一生懸命」が自分のモットーです。中途半端なことは好きではないです。「遊ぶときは遊び、仕事をするときは仕事をする。」同時に2つ以上のことをするのも好きではありません。1つ1つのことに専念します。また、目の前にある問題は、曖昧にせず、1つずつリストアップして順番に終わらせるようにしています。

#### ■これからの夢

場所を借りずに、フラワーアレンジメント教室が開けるよう田中園芸の敷地内に、コンテナハウスを整備したいと思っています。また、お風呂用のバラの花ギフトボックスや、注文受付用のホームページを作成したので、ネット販売に力を入れていきたいです。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

自由な時間はあまりありませんが、子供との時間が、面白く充実しています。今は、子供との時間も大切にしたいと思っています。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

自分の居場所があつたらいいと思います。お手伝いでもいいので、自分のやるべきことが見つければ、毎日専念できて楽しいのではないかと思います。やりなさいと言われたことより、やりたいと思うことをする方が毎日楽しく、楽しければ、1日はあつという間に過ぎていきます。



林 絹江さん  
Hayashi Kinue



砺波市

農業

農工房長者  
株式会社

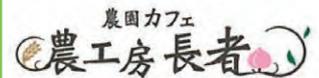
[キーワード]

米・果樹  
農家カフェ  
餅加工

Profile

- 2000年 夫の脱サラ就農に伴い、夫と共に水稲中心の農業経営を開始
- 2006年 桃・ブルーベリーを定植し経営を複合化
- 2010年 農工房長者(株)を設立し取締役就任
- 2015年 古民家を改装し、「カフェ農工房長者」をリニューアルオープン

農工房長者(株)の取締役・加工果樹部門責任者。自社で生産された米や果物を使った団子・パフェ等のメニューを開発し、農家カフェで提供。持ち前の経営センスと行動力で、農家カフェの経営の安定を実現するとともに、地域の女性の雇用拡大に貢献。



—Interview—

■就業のきっかけ

実家は「うどん屋」で、町中に住んでいたのですが、水田や畑の作業経験はなく、農業に関心はありませんでした。

3人目の息子が誕生してから、兼業農家だった夫が急に専業農家になりたいと言い出しました。米の栽培に必要な機械は、乾燥機以外は、所有していなかったので、数千万円の借金を背負ってのスタートとなりました。借金を返し、経営を軌道に乗せるために、農業が嫌だと駄々をこねている暇はなく、毎日が必死でした。また、せっかく農業をやるのであれば、楽しく、農家の強味を活かしたことをやりたい思いもありました。農業について、何も知らなかったからこそ、自分らしく農業と関わることができたと思っています。

■仕事のこと

農工房長者は、水稲、大豆、里芋、果樹(桃、ブルーベリー)などの栽培に加え、自社で生産された米を使った餅・団子の加工販売や農家カフェでフルーツパフェなどを提供しています。カフェ部門については、経営管理からメニューの開発まで、自分が責任をもってやっています。桃の収穫は早起きしてやっていますが、その他の農作業は、主人や息子、従業員に任せています。

カフェでは、パート従業員を6、7人雇用しています。働いているのは全て女性です。皆が、楽しく働ける環境をつくるために、人間関係には一番、気を使っています。親睦を深めるために、年に2～3回の食事会を行い、人間関係がうまくいっていない時は、仲裁に入ることもあります。また、従業員の雇用時の面接では、円滑なコミュニケーションがうまくできる方かを特に気にかけて採用しています。



一経営の中で大切にしていることを教えてください  
無理しなくても継続できる経営であるかを第一に考えています。自分が負担だと思ふことは、従業員も負担だと思ふので、自分が負担を感じない方法を取り入れ、実践しています。例えば、パフェは誰でも簡単にできる盛りつけにしています。インスタ映えするおしゃれなパフェに憧れたこともありましたが、負担なく作れることを優先しています。盛りつけが簡単なパフェにすることで、従業員の一人が休んでも別の人で補い合える体制づくりにつながっています。誰かが抜けたら行き詰まる状態は作りたくありません。

無理なく経営を継続するために、一番利口な方法は何かを常に観察・分析し、考えるようにしています。その時々状況に合わせて、ベストな方法を考え、従来のやり方の無駄や改善点に気づいた場合、ためらわずに、やり方を変更します。

一果樹栽培を始めたきっかけを教えてください  
長野県の友達が桃と林檎を栽培していました。「桃は3年で収穫ができて楽しいよ。」との言葉をきっかけに桃の栽培を始めました。ブルーベリーは砺波農林振興センターから勧められたことがきっかけです。経営面を考えた場合も、大型機械がなければ栽培できない水稲に比べ、果樹は草刈機、農薬散布機、人手があれば栽培できます。大きな借金を背負わなくてもできる品目だと思いました。

一カフェの新メニューはどのように出来上がりますか？

メニューの案は私が作りますが、具体的なことは、カフェの従業員全員に相談してアイデアを出してもらい、決めています。最初にメニューを共有しておけば、教える時も楽になり効率的です。

### ■これからの夢

果樹園を大きくしたい夢があります。桃、ブルーベリー、いちじくに加え、柿、ぶどう、栗も植えてあります。柿は今年から収穫が始まるので柿パフェをラインナップに加える予定です。ぶどうと栗は2〜3年後に収穫が始まるので、どのような商品を作るか夢が広がります。

果物の加工にも、もっと力を入れていきたいです。果物が入ったアイスクリームや大福・おはぎなどを考えています。

### ■リフレッシュ方法

旅行がリフレッシュになっています。農閑期に休みをとって1週間程度の旅行に行きます。昨年は主人と北海道へ、一昨年は友達と香港へ行きました。自由に旅行へ行くためにも、誰でも私の代わりができる仕組みづくりは大切と思っています。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

農業はアイデア次第で楽しくなります。アンテナを高くし、流行に合わせた果樹を栽培し、新たな商品を開発するなど自分で選択ができるのは楽しいことです。また、農業は失敗しても、何度でも挑戦できるのが良いところです。

北陸3県は果樹農家が少なく、農家カフェも少ないので、まだまだ果物を使った農家カフェの需要はあると感じています。

自分がリーダーとなり仕事をする時は、自分自身が楽しんでいないと誰もついてこないなので、農業経営の中に自分なりの楽しみを見つけてください。



# 各種窓口

## 農林業の新たな取り組みに関するご相談

新川農林振興センター			
農業	〒938-0801 黒部市荻生 3200	黒部庁舎	担い手支援課 経営支援班 TEL 0765-52-0268
林業	〒937-0863 魚津市新宿 10-7	魚津総合庁舎 3 F	森林整備課 林政・普及班 TEL 0765-22-9143
富山農林振興センター			
農業	〒930-0088 富山市諏訪川原 1-3-22	諏訪川原庁舎	担い手支援課 経営支援班 TEL 076-444-4521
林業	〒930-0096 富山市舟橋北町 1-11	富山総合庁舎 3 F	森林整備課 林政・普及班 TEL 076-444-4476
高岡農林振興センター			
農業	〒933-0806 高岡市赤祖父 211	高岡総合庁舎 2 F	担い手支援課 経営支援班 TEL 0766-26-8474
林業	同	4 F	森林整備課 林政・普及班 TEL 0766-26-8454
砺波農林振興センター			
農業	〒939-1386 砺波市幸町 1-7	砺波総合庁舎 3 F	担い手支援課 経営支援班 TEL 0763-32-8111
林業	同	2 F	森林整備課 林政・普及班 TEL 0763-32-8131

## 農林漁業への就業に関するご相談

公益社団法人 富山県農林水産公社			
〒930-0096	富山市舟橋北町 4-19	富山県森林水産会館 6 F	農業部 TEL 076-441-7396
	同		森林部 TEL 076-441-6747
	同		水産部 TEL 076-431-9595

## 富山県農山漁村女性活動推進会議 構成6団体 事務局

JA 富山県女性組織協議会			
〒930-0006	富山市新総曲輪 2-21	富山県農協会館 7 F	富山県農業協同組合中央会内 TEL 076-445-2340
富山県漁業協同組合女性部連合会			
〒930-0096	富山市舟橋北町 4-19	富山県森林水産会館 4 F	富山県漁業協同組合連合会内 TEL 076-432-6222
富山県地域活性化グループ協議会			
〒930-0004	富山市桜橋通り 5-13	富山興銀ビル 10F	富山県農林水産部農業技術課内 TEL 076-444-3277
富山県農業者協議会			
〒930-0096	富山市舟橋北町 4-19	富山県森林水産会館 6 F	(一社)富山県農業会議内 TEL 076-441-8961
富山県林業研究グループ協議会			
〒930-0004	富山市桜橋通り 5-13	富山興銀ビル 4 F	富山県農林水産部森林政策課内 TEL 076-444-3387
富山県青年農業者協議会			
〒930-0096	富山市舟橋北町 4-19	富山県森林水産会館 6 F	(一社)富山県農業会議内 TEL 076-441-8961

発行 / 富山県農林水産部

富山県農山漁村女性活動推進会議

2021年3月

【お問合せ】 富山県農山漁村女性活動推進会議 事務局 富山県農林水産部 農業技術課

〒930-0004 富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 10F TEL:076-444-3277 FAX: 076-444-4409

富山県農山漁村女性活動推進会議の構成団体

JA 富山県女性組織協議会

富山県漁業協同組合女性部連合会

富山県地域活性化グループ協議会

富山県農業者協議会

富山県林業研究グループ協議会

富山県青年農業者協議会